

笑顔と情報を発信するコミュニケーションマガジン

2020

10

VOL.247

山大医学部 病院だより

特集

新型コロナウイルス感染症に対する
山大病院の取り組み



山大病院の取り組み

新型コロナウイルス感染症について、

本院では山口県内での流行期に備えた体制と対策の整備について国内発生の早期から取り組んできました。

本院では、地域の基幹病院および特定機能病院として、救急医療や高度先進医療を継続的に提供するとともに、入院治療を要する患者を積極的に受け入れる、また、他院での治療が困難な重篤な新型コロナウイルス感染症患者を受け入れることを基本方針として、診療を行っています。

新型コロナウイルスを 持ち込まない・見逃さない

本院は特定機能病院の機能を維持し、医療を必要としている患者さんに適切な医療を提供すべく、新型コロナウイルスを「持ち込まない」「見逃がさない」「拡散させない」を方針に、患者さんの安全を確保し、安心して医療を受けていただけるよう、次のような対策を行っています。

○病院への入館制限

病院への入館箇所を1ヶ所とし、入館時に体調や新型コロナウイルス感染症患者との接触などの確認、検温と入院患者さんへの面会制限を行っています。

○マスク着用と手指消毒

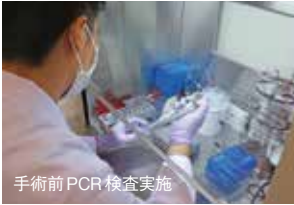
感染対策の基本は、マスク着用と手指消毒になります。職員はもとより患者さんに対してもマスク着用と手指消毒の励行をお願いしています。

○入院前PCR検査の実施

新型コロナウイルス感染症には、発熱などの症状がない無症状・無自覚の感染も確認されています。本院に入院



入館前の検温



手術前PCR検査実施

通院されている患者さんの多くは重症度が高いため、新型コロナウイルスの感染によって原疾患が重症化する恐れがありますので、感染を未然に防ぐことが必要です。また、院内において患者間の感染を防ぐことも重要なことです。

そのため、全ての患者さんに安心して医療を受けていただけるよう、入院患者さんの入院前PCR検査を行うこととしました。6月から手術前患者さん及び分娩前患者さんを優先しPCR検査を開始し、その後、検査体制をさらに充実させ（検査技師の増員、検査機器拡充、専用検査室の整備）、8月からはその他の入院患者さんにも対象を広げました。9月初旬時点で平日1日当たり100件の検査が可能となりました。入院前の外来診察時に検体を採取し陰性であることを確認した上で入院していただくこととしています。

高度医療を提供する 山口県の最後の砦として

本院では、山口県で唯一の特定機能病院として、重症化した患者さんを受け入れるため、ウイルスを室外に逃さない陰圧病室やECMO（体外式膜型人工肺）など、高度な医療を提供するための施設や設備を整えています。



ECMO



陰圧室 室内



陰圧室 入口

COVID対策チーム「YMECO」 YAMAGUCHI UNIVERSITY MEDICAL COVID-19 S 設置

地域流行期に備えて多職種による対策チームを設置し、新型コロナウイルス感染症対策に対する課題に取り組み、早急に情報共有し対応しています。



皆様にはご不便をおかけ致しますが、何卒ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。なお、新型コロナウイルス感染症患者の発生状況等により、この内容を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。最新情報はホームページをご覧ください。



山口大学医学部
附属病院
ホームページ
<http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>

マスク等医療物資の ご寄附、ご支援へのお礼

新型コロナウイルス感染拡大の影響でマスクなど医療に必要な物資が不足する中、多くの市民の皆さま、企業・団体・医療機関の方々から、マスクやガウン、フェイスシールドなどのご寄附をいただきました。

このようなあたたかなご配慮をいただいておりますことに、職員一同心より厚く御礼申し上げます。

皆さまからのご支援・ご声援を励みに、引き続き安心・安全な医療をご提供できるよう努めてまいります。

今後とも山口大学医学部附属病院にご支援賜りますよう、よろしくお願いたします。

病院長 杉野 法 広

ご支援いただいた方々（一部）

お名前	内 容
特定非営利活動法人 山口スマートコミュニティ支援センター様	マスク 3,000枚
県内医療機関様	サージカルマスク 10,000枚
オンガネジャパン株式会社様	マスク 1,000枚
宇部市民の方々	雨合羽 700枚
個人の方	マスク 2,000枚
宇部西ロータリークラブ様	アイソレーションガウン 90着
合同会社ロックンロール様	マスク 1,000枚
前村電気工事株式会社様	マスク 2,000枚
東ソー株式会社様	マスク 2,000枚
琴芝地区子ども会育成連絡協議会様	千羽鶴・応援メッセージ
株式会社 ENEOS ウイング様	マスク 200枚 (院内保育所へ)
一般社団法人 国際医療交流支援協会様	マスク 10,000枚
株式会社竹中庭園緑化様	フェイスシールド 1,000枚
特定非営利活動法人ジャパンハート様	マスク 4,000枚
三菱ケミカル株式会社様	フェイスシールド 1,200枚 プラスチックガウン 200枚 エタノール 4缶
個人の方	マスク 1,000枚
株式会社日立製作所様	フェイスシールド 70個
メディカルエキスパート株式会社様	フェイスガード 200枚
錦町農産加工株式会社様	ヘルシーリゾット各種 21ケース



合同会社ロックンロール様



琴芝地区子ども会育成連絡協議会様



山口スマートコミュニティ支援センター様



地域ボランティア団体様

医学科学生がコロナウイルス感染症の 動画を制作しました

新型コロナウイルス感染症の影響で実習等ができなくなった医学科の学生が、医学実習課題として医学知識を広めることを目的とした動画を制作しました。

呼吸器・感染症内科医師スタッフらの監修で、肺炎とコロナウイルスについて音声入りでわかりやすく紹介しています。

山口大学広報室 YouTube チャンネルで公開していますのでぜひご覧ください。

肺炎とは？



コロナウイルスについて 今知っておきたいこと



新学部長就任の

いあいさつ



山口大学大学院医学系研究科長

山口大学医学部長

山口大学医学部医学科長

神経解剖学講座教授

篠田 晃

このたび、山口大学大学院医学系研究科長及び医学部長、医学科長に就任いたしました。篠田晃（しのだこう）と申します。

山口大学医学部は山口県の南西部、瀬戸内海に面する「緑と花と彫刻のまち」宇部市の中心部にあり、維新の地、山口で、新進の気質と開拓の精神を持ち、「医心」あふれる医療人の育成と医学の発展に貢献しています。昭和19年に創立した前身の県立医学専門学校が、昭和24年に国立医科大学となり、昭和39年に国立大学に移管され、山口大学医学部医学科に引き

継がれました。平成12年には医学部に保健学科が設置され、看護学専攻と検査技術科学専攻を配して現在の体制となりました。伝統と高度な医学レベルを堅持し、山口大学医学部は、学術スピリッツ（アカデミズム）を源泉として、その流れを汲む強靱な研究力、教育力、臨床力が発揮できる医学アカデミアの形成を目指しております。山口県の医学と医療の拠点として、臨床マインドと研究マインドを両輪とした学術臨床教育 Academic Clinical Education を行い、国際的視野と地域親和性を有する個性豊かで優秀なアカデミア人材を育成していきたいと考えております。

近代医学の歴史は、細菌の発見、ウイルスの発見、ワクチンの開発、抗生物質・抗ウイルス剤等の治療薬の開発といった先人医学者による感染症の克服に向けた努力と輝かしい成果から始まったという見方もできます。2020年に入り、新型コロナウイルスが世界的猛威を振るう中、全世界が医学・医療の原点回帰の重要性とウイルスとの共生、病気との共生という新たなメデイカルスタイルやライフスタイルの必要性を再認識しているところでは、ワクチンや治療薬の開発、感染症対策、遠隔医療や遠隔教育等のリモートシステム拡充等は大きな課題であり、時代の変化に応じた医学教育・研究・医療システム作り、医学部や病院の人材育成の責務をあらためて感じる次第です。

医療の基本は、感染症のみならず、疾病の複雑化や人口の高齢化が進む現代でも、ご家族を含めた患者さんへの最善の医療提供に加えて、密着したトータルなサポートや安心して治療を受けていただける環境作りにあることは変わりありません。一方、今まで以上にグローバルスタンダードや基礎研究をベースとしたトランスレーショナル医学や高度先進医学への対応も求められる時代となりました。

現代ほど医学が生命科学や情報科学などの他分野と関わりを緊密化し、境界が曖昧かつ肥大化した時代はありません。そして、この境界領域こそが臨床医学も基礎医学も巻き込む高度な医学的発展を遂げた領域であり、山口大学においても先端がん治療や再生医療、成人病・生活習慣病、精神・神経疾患、遺伝疾患など難病に対する高度先進医療をリードしてきた領域であります。今また高度に進化したデータサイエンス等との融合分野が台頭してきており、山口大学医学部はこれに即応し、他大学に先駆けてAIシステム医学・医療研究教育センター(AISMEC)を設置して、新たな時代に向けて邁進しております。

こうした広範に渡る高度な対応が求められる現代医学・医療にあつて、医学者、医師、看護師、臨床検査技師等を目指す学生は十分な専門知識と技能の獲得が必要であり、チーム医療・医学を俯瞰し、支え合い、協調できる能力は不可欠にな

ります。医療スタッフがまとまり、患者さんや医学周辺分野を繋ぐためには、互いの心を理解できる高い人間力が必要で、思いやりのあるコミュニケーション力、説明能力、人道的倫理観を身につけることが強く求められます。これらは目的を共有した誠実な議論や活動を通じて切磋琢磨されるでしょう。真剣な課外活動や学外活動を推奨してサポートしたいと思っております。

時代の変化と色々なニーズに対応して、医学部は常にカリキュラムの改善に努めており、2019年度に医学教育分野別評価(国際認証評価)を受審し認定されました。また国際的視野と学術研究心の涵養は医学部教育の特色に挙げる事が出来ます。医学科の学生は「自己開発コース」などを通じて、毎年十数名が約5ヶ月の間、欧米を中心とした海外の研究室で研究を行っています。保健学科は、アジア、オーストラリアの国々との連携による APAHL (Asia-Pacific Alliance of Health Leaders) を組織し、学生の交流を行っています。専任の外国人教員も在籍しています。多様な人材を活用してアカデミアの源泉をより広く深く醸造し、地域でも世界でも社会貢献できる個性豊かな人材を育成・輩出し、現場での医療活動から高度な先進医学・医療まで多岐に亘る医学教育・研究・臨床医学界や社会や産業界へ還元できる役割を果たしたいと考えております。

CRISPR/Cas3ゲノム編集技術を用いた PRIME他家CAR-T細胞療法の開発提携

詳しくは、
こちら

大学院医学系研究科免疫学講座の玉田耕治教授は難治性固形がんへの有効性を示すPRIME技術の発明者の一人であり、この世界最先端のオリジナリティの高い研究成果を医薬品として世に送り出すために、山口大学発バイオベンチャーのノイルイミュン・バイオテック株式会社を立ち上げ、研究開発を行ってきました。

この度、このノイルイミュン・バイオテック株式会社と、世界最先端技術のゲノム編集技術CRISPR/Cas3を擁する大阪大学発

ベンチャーC4U株式会社が、他家細胞由来のPRIME CAR-T細胞療法技術の共同研究及び事業化を目的として事業提携を行いました。

山口大学は文部科学省補助金事業の「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」を山口県との共同で取り組んでおり、今回の事業提携は、このプログラムの進展に大きく貢献・寄与するものです。

5月27日(水)、吉田キャンパスにおいて、記者説明会が開催され、冒頭、岡 正朗学長

からこの取り組みの意義について挨拶があり、その後 玉田教授から研究内容についての説明がありました。

国立大学が発明した技術を基に大学発ベンチャー企業同士が連携することで革新的な国産治療薬を開発することは非常に画期的な取り組みであり、将来この治療薬が難治性固形がんに苦しむ世界中の多くの患者さんを救うことが期待されます。



山口大学AIシステム医学・医療研究教育センターとエクサウィザーズ 医療AI活用のための包括的な共創事業を開始

詳しくは、
こちら

山口大学と株式会社エクサウィザーズ(東京都港区)は、データサイエンスの技術を用いて診療現場の課題解決することを目指し、医療AI活用のための包括的な共創事業を開始しました。

国内の高齢者人口の増加に伴い医療や介護の需要が増していく中で、AIを含む様々なテクノロジー活用によって患者さんへのサービスレベルの向上と医療・介護従事者へのサポートを両立させていくことへのニーズが高まっています。

本学では、AIシステム医学・医療研究教育センターを核として、AIとシステムバイオロジーの技術を融合し、基礎医学研究力の強化、医療技術の向上、将来の情報系医師の人材確保を目指しています。

エクサウィザーズが取り組むMedTech事業では、データとAIの活用により、患者さんと医療・介護従事者の双方にとって価値のあるヘルスケアの実現を目指しています。

共創事業では、本学が持つ医療現場とアカデミアの専門性、エクサウィザーズが持つAI開発企業の技術力と事業開発力を活用

し、医療現場のニーズを抽出・発掘することで、新たなAIシステム実装に取り組めます。まず、「フレイル予防に向けたパーソナルヘルスレコード(PHR)とAI解析の融合による行動変容ツール開発」「受精卵タイムラプス画像のAI解析による良好胚の選別」「CT画像などのAI解析に基づく虐待が疑われる児童の医学的判別支援システム構築」の3領域で取り組みをはじめ、ワークショップなどを定期的に開催することで、各診療科での

テクノロジー活用ニーズも今後さらに発掘・追加していきます。

エクサウィザーズの動画像や音声、テキスト等の非構造化データを用いたAI開発力およびソフトウェア開発力を組み合わせることで、研究開発にとどまらない医療現場への実用化を前提に、AIを利活用した新たなイノベーションとビジネス創出を目指します。



**エクサウィザーズと山口大学AIシステム医学・医療研究教育センター
医療AI活用のための包括的な共創事業を開始**

山口大学 AIシステムバイオロジーの技術と融合し、基礎医学研究力の強化、医療技術の向上、将来の情報系医師の人材確保に取り組み

 山口大学 大学院医学系研究科免疫学講座 教授 玉田 耕治	 山口大学 大学院医学系研究科免疫学講座 教授 玉田 耕治	 山口大学 学長 岡 正朗	 山口大学 学長 岡 正朗	 山口大学 大学院医学系研究科免疫学講座 教授 玉田 耕治
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

エクサウィザーズ データとAI活用により、患者と医療・介護従事者の双方にとって価値のあるヘルスケアの実現に取り組み

 代表取締役社長 岡 正朗	 取締役 山本 隆	 取締役 山本 隆	 取締役 山本 隆	 取締役 山本 隆
--------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

山口大学医学部附属病院の ホームページをリニューアルしました

このたび、本院ホームページをリニューアルしました。目的・対象者別メニューの設置や患者さん向けページの追加など、患者さん・ご家族が利用しやすいデザインとなっています。スマホでの閲覧にも対応していますので、ぜひご覧ください。

山口大学医学部附属病院ホームページ

<http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>



スマホで見たイメージ



(ページ見本)

知っちょる？

山大病院の冊子版を制作しました



山大病院の診療内容をより広く知っていただくためにYouTubeで公開している、診療紹介映像「知っちょる？ 山大病院」の冊子版を制作しました。山大病院で行っている41の診療内容を写真やイラストを使い、わかりやすく紹介しています。外来棟やNOKIのラックにて無料配布しておりますので、ぜひお持ち帰りください。



(ページ見本)

Topics

日本COVID-19対策ECMOnet 人口呼吸/ECMO講習会が 開催されました

8月30日(日)、「日本COVID-19対策ECMOnet 人口呼吸/ECMO講習会」が開催されました。当講習会は、「厚生労働省ECMOチーム等養成研修事業(人工呼吸・ECMO講習会)」を委託事業として日本のCOVID-19対策ECMOnetが受託し、全国各都道府県で実施されています。



山口県においては、本院で実施されました。県内の医療機関に勤務する医師、看護師、臨床工学技士等が参加し、新型コロナウイルス感染症の重症例に対する人工呼吸管理、ECMO管理を学びながら、同治療を有効かつ安全に実施可能な“多職種からなる医療チーム”の育成が行われました。

「人工呼吸」の講習では、肺保護換気概論や腹臥位療法について、「ECMO」の講習では、ECMO管理概論やECMOの機器を実際に用いてグループごとに実践さながらのシミュレーションが実施されました。



新生児ドクターカー(すくすく号) 運行開始

本院総合周産期母子医療センターでは、令和2年3月に新生児ドクターカー「すくすく号」の運行を開始しました。搬送元の医療機関(赤ちゃんが出生した医療機関)の要請に応じて出動し、低体重で生まれた赤ちゃんなど緊急に集中治療を必要とする新生児に適切な初期治療を行いながら高度な治療を行う医療機関に搬送します。

すくすく号は搬送用保育器や人工呼吸器等を搭載し、医師・看護師が同乗することで、より早い医療的ケアを可能としています。出動先は山口県内及び近隣県の医療機関です。

本院はすくすく号の運用を通じて、県内の周産期医療体制のさらなる充実に貢献します。

2020年 新生児ドクターカー 出動件数	3月	4月	5月	6月	7月	8月
	2	3	4	8	1	4



2020年度治験功労者表彰式を 行いました

7月1日(水)、2020年度治験功労者に対する表彰式を行いました。この表彰は、治験の推進に特に顕著な功績があった個人及び団体を表彰するものです。

表彰式では、杉野病院長から治験症例を多く登録した医師及び団体を表彰するとともに、治験を円滑に進めるために貢献した団体に敢闘賞を贈呈しました。また治験への貢献に対する謝辞ならびに今後のさらなる活躍を期待する旨の祝辞がありました。

2020年度の実績者は、次のとおりです。

個人賞

第一位 麻酔科・蘇生科 山縣 裕史
第二位 皮膚科 下村 裕
第三位 泌尿器科 松山 豪泰

敢闘賞

視能訓練士(眼科)
病理診断科
脳神経内科

団体賞

泌尿器科



手術支援ロボットを用いた 食道がん手術を開始

2020年8月から、本院で山口県では初となる「手術支援ロボットを用いた食道がん手術（ロボット支援下手術）」を開始しました。

ロボット支援下手術は、内視鏡外科手術の新たな手術方法です。ロボット手術といっても、機械が自動的に行うものではなく、ロボットアームに取り付けられた内視鏡やメス、鉗子（かんし）などの手術機器を医師がカメラを通して操作し手術を行うものです。

既に国内でも数多く行われており、皆様も「ロボット手術」「ダヴィンチ手術」などとお聞きになったことがあると思います。本院でも2012年にロボット支援下手術を導入しており、現在最新機種「da Vinci Xi システム（Intuitive Surgical 社）」による前立腺、腎臓（泌尿器科）、肺、縦隔（呼吸器外科）、胃（消化器外科）の手術を行っています。

2018年4月に食道がんの手術についても保険適用となり、このたびロボット支援下食道がん手術を行うこととなりました。

食道がんを根治する唯一の治療法は手術で、これまで胸やお腹を大きく開いた状態で手術を行っていましたが、高い侵襲を伴うことが課題でした。近年、胸やお腹に数ヶ所小さな穴をあけ内視鏡を使用した低侵襲な内視鏡手術が普及して、食道がんにも胸腔鏡を用いた手術に応用されていますが、食道の切除と再建や機能温存には精密な操作が要求されます。特に声帯を動かす反回神経の温存は重要で、発声の障害は手術後の生活に大きな影響を及ぼします。従来の胸腔鏡下手術は、医師の手で細長い棒状の専用の鉗子などを使い、深い部の切除等を行っています。細部の操作性に限界があり、神経へのダメージが懸念されていました。この点を克服してくれるのがロボット支援下手術になります。高画質な3Dフルハイビジョンカメラで手術部位の細かい解剖までより判別しやすくなり、また、専用の鉗子は人の手以上によく曲がる多関節機能で手振れも抑制されるため、狭くて深い体腔内でも繊細で正確な手術操作が可能です。ロボット支援

下手術は、従来の手術の欠点を補い精密で愛護的な操作により神経機能を温存しつつ根治性を高めることが期待されています。

一方、ロボット支援下手術の実施には、高い専門的な知識や技術と経験が必要になります。本院では、山口県唯一の食道外科専門医認定施設として食道外科専門医を中心に専門性の高い食道がん治療を行っています。また、日本内視鏡外科学会による内視鏡外科技術認定（食道がん手術）も取得しており、安全な内視鏡外科手術を実施しています。

今後も、ロボット支援下食道がん手術の導入により、さらに高水準でからだに優しい手術を提供し、食道がんの治療の向上に貢献していきます。



公式Facebookページで
山大病院の情報を配信中!!



企画発行

山口大学医学部広報委員会・山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串1丁目1番1号 TEL 0836-22-2007
医学部 <http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/>
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>